

正倉院文書研究の新たな試み

日時：2014年11月8日(土) 15:00～

会場：奈良女子大学 生環系A棟 生活環境学部会議室

古代学学術研究センターでは正倉院文書研究の新たな試みとして、国語学と歴史学の共同研究によって正倉院文書の解明に取り組んできました。従来の正倉院文書研究にはなかった新たな視点からの研究成果の一端を紹介します。

∞ 正倉院文書の「運」と「漕」

— 科学研究費補助金研究「正倉院文書による日本語表記成立過程の解明」終了報告 —

桑原祐子 (古代学学術研究センター協力研究員／奈良学園大学)

文字を書くことが仕事であった古代の下級官人たちは、本来の漢語用法から逸脱しながらも、実務の現場にふさわしい漢字の使い方をしている。しかし、それは、彼らが漢語本来の用法を認識していなかった結果ではない。漢字の持つ機能を十分に理解したうえでの様々な工夫がそこにはあったと考えられる。そのような実態の一端を「運」と「漕」という言葉を通して明らかにし、日本的な漢字用法が生み出される背景を考えたい。

∞ 「啓」の由来と性格 — 正倉院文書の書状を通じて —

— 科学研究費補助金研究「書状文化の源流を求めて」成果報告 —

黒田洋子 (古代学学術研究センター協力研究員)

正倉院文書の中には公式令の規定になかったり、あるいは逸脱しているように見えたりと、十分に解明されていない文章様式が見られる。「啓」という文章様式もその一つである。正倉院文書の書状にみえる「啓」の性格から「啓」本来の由来や性格を明らかにし、日本に受容された経緯についても明らかにしたい。

申し込み不要・入場無料

主催：奈良女子大学古代学学術研究センター

共催：科学研究費補助金研究「正倉院文書による日本語表記成立過程の解明」研究グループ（研究代表：桑原祐子）
科学研究費補助金研究「書状文化の源流を求めて」（研究代表：黒田洋子）